



街のあちこちに灯るイルミネーションが、長い冬の夜を優しく照らし、クリスマスが近づいてきたことを知らせてくれています (笑)

白ゆりっ子達は、生活発表会に向けて、友達と声を合わせ、心をひとつにして毎日練習に励んでいます。ひとりでは難しかったことも、仲間と支え合うことで少しずつ形になっていきますよ。

セリフを忘れてしまった友達に、そっと小声で教えてあげる姿、音を外しても顔を見合わせて笑い合う姿…そこには「一緒に頑張る」温かさが溢れています。

そんな毎日の中で「サンタさん、見ていてくれるかな?」と、小さな声でつぶやく子も…

努力の先に待つご褒美は、プレゼントだけではなく、仲間と作り上げる達成感そのものですね (笑)



★★★ATTENTION★★★

12月11日(木)は、年長児生活発表会総練習のため、降園時間が30分遅れとなります。バス通園の方は、降園バスの時刻を間違えないようご注意ください。なお、お歩きコースの降園時間は通常通りです。



△▽△重要△▽△

2号認定・新2号認定、並びにつぼみぐみのお子さんで、冬休み期間に預かり保育を利用される方にお知らせです。

冬休み期間に預かり保育を利用される方は、**利用日と利用時間を12月15日(月)までに**事務長藤田宛に CODOMON でお知らせ下さい。教員の配置を調整しなければならないのでよろしくお願いします。

新2号認定とつぼみぐみのお子さんで、**1月1ヶ月預かり保育を利用される方の1月分の利用料金は13,500円**です。令和8年1月5日(月)に納めて下さい。

また、冬休み期間中の給食提供を希望される方は、**12月15日(月)までに提供希望日を**事務長藤田宛に CODOMON でお知らせ下さい。

なお、代金は**12月19日(金)までに納めて下さい。(*代金440円×日数)**

生活発表会が開催される3日間は、つぼみぐみのおさんは休園日となりますが、

もし、ご都合が付くご家庭は、生活発表会の様子をご覧になりませんか?!

座席に若干の余裕があります。お兄ちゃんお姉ちゃん達が舞台上で輝く様子をご

覧いただき、1年後、2年後、3年後のお子さんの姿と重ね合わせてみませんか (笑)

親子の信頼関係 ～「信じる力」が育つまで Part1～

新入園児募集の時期になると、多くの方が白ゆりっ子達の園生活の様子を見学に来られます。白ゆりっ子達が様々な課題活動に取り組む様子を見て「失敗したら…挫折したら…」の心配を強く感じる保護者の方が近年増えていますね。「失敗させたくない!」「挫折させたくない!」という親心はよくわかりますが、本当の願いは、困難や不自由に粘り強く立ち向かう「**“強い子”に育ってもらいたい!**」はずです。我が子が「あれをやってみよう!」「できるようになるまで頑張りたい!」と、色々なことにチャレンジする姿を見て嬉しくない親はいないはず。白ゆりの課題活動は、まさにこの**“挑戦する心”を育てるための学び**です。その勇気を支える一つが「親子の信頼関係」です。

親子の信頼関係の原点は、実はとても早い時期に始まっています。0歳から1歳の頃、親が子どもの泣き声に応え、おむつを替えたり抱き上げたり、目を合わせて語りかける…その積み重ねの中で、子どもは「自分は大切にされている!」「この人は自分を守ってくれる!」という安心感を得ていきます。

一方で親もまた、「自分があやすと泣き止む!」「この子が笑ってくれる!」と感じながら、自分の関わりに自信を深めます。こうした「相互の安心感」の積み重ねこそが、愛着関係の基礎ではないでしょうか。

愛着関係は、親が「良い」と思うことを一方的に施すことで築かれるものではありません。大切なのは、子どもの発するサインに「応答」することで、泣いたとき、笑ったとき、指を差したとき…その気持ちを受け止めてあげることです。この「応答性のある関わり」を通して、子どもは「自分の思いが届いた」という手応えを持ち、後の「主体性」や「自分を信じる力」に繋がるのです。

やがて4歳、5歳を迎える頃…言葉が豊かになり、自分の思いや考えを表現できるようになると、友達との関わりが深まり、比較の意識も芽生えます。「○○ちゃんの方が速い」「僕はうまく描けない」…そんな場面で、子どもは初めて「自分の力への信頼」が揺らぐことを経験します。パパやママにとっては、我が子が失敗や挫折をどう乗り越えていけるか、不安になる時期でもありますね。

けれども、この揺らぎこそが成長の証でもあるのです。世界が広がるということは、新しい挑戦に出会うということで、挑戦がある限り、失敗も挫折も避けて通れませんよ!

この時期から、親が子どもに向ける「信頼」の形も少しずつ変えていかなければなりません。赤ちゃんの頃のように「守る」「与える」だけではなく、「**信じて待つ**」「**任せる**」「**励ます**」ことが大切になってきます。

ここで一つ気をつけなければならないのは「親の信頼感」がいつの間にか「親の期待」にすり替わってしまうことです。「うちの子はちゃんとやってくれる」「親の言うことをよく聞く」…こうした期待が強くなると、子どもがその通りに動けなかった時に、親は不快感や怒りを覚えがちになってしまいます。「そんな子じゃなかったのに…」という言葉が思わず出てしまうこともあるかもしれません。でもそれは、子どもが「期待を裏切った」のではなく、親の中の「理想像」から少しはみ出しただけなんです!

子どもにとって何よりつらいのは、失敗した自分を責めるよりも、「親をがっかりさせた自分」を責めることです。そうなると、子どもは失敗の意味を考えるより、親の機嫌を伺うことを優先してしまいます。**挑戦よりも“無難”を過**ぎようになってしまうのです。

Part2 へつづく →

